

報新團教

定 価 １部 140円（本体 133 円＋税 200 円）
 予約購読料 １年分 共計 5,000 円
 紙代のみ 3,500 円
 振替 00140—9—145275

本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。

教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 **日本基督教団**
 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0548
 FAX03(3207)3918
 E-mail:shimpoh-c@uccj.org

発行人 竹 前 昇
 編集主筆 竹 澤 知代志
 印刷所 株式会社きかんし



和歌山教会

イースター メッセージ

復活が信仰の中心



青戸宏史

コリントの信徒への手紙一
15章1～21節

パウロは「：あなたがたに告げ知らせた福音を、こ
こでもう一度知らせます。
これは、あなたがたが受け
入れ、生活のよりどころと
している福音にほかなりま
せん。どんな言葉でわたし
が福音を告げ知らせたか、
しっかりと覚えていれば、あ
なたがたはこの福音によっ
て救われます」(コリント一
15・1・2)と語っています。
す。福音とは何か。喜びの
音つれ、人を救う出来事を
言います。出来事とは何か。

主イエス・キリストの出来事です。パウロは「最も大切なものとしてわたしがあなたがたに伝えたのは」と言い「聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のため

に死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと」(コリント一15:3-4)と主キリストの十字架の死と復活の事実(出来事)を、聖書の言葉の成就のなされたこととして語るのです。特に、ケファを

はじめ、多くの人たちに、「：最後に月足らずに生まれたようなわたしにも現われました」(コリント一 15・8)と、復活の主が現れて下さったことを証言することによって、信仰の中心が復活にあることを示しているのです。聖書全体は、復活とその現実について語っています。また、使徒たちも復活の証人として歩み、世々の教会もその復活の恵みによって誕生し、立てられ、今も、主の復活を

覚えて、主の日に集まり
礼拝をささげているので
す。復活は、信仰の中心の
問題なのです。パウロが主
キリストの復活のことを重
んじているのは、決して十
字架よりも復活の方が重要
だからというのではなく、
復活が十字架をまことに救
いの事実にしてくれるから
です。また、彼がアテネ伝
道をした時、人々は「死者
の復活と言うことを聞く
と、あざ笑ひ、『それにつ

死から始まる

コリントの人たちは、主キリストが復活しなかった、キリストの復活を信じないと、言っているのではない。『死者の復活はありません。死者の復活はない』と、言うのです。改めて、主イエス・キリストによって与えられる「救い」

いは、いずれた聞かされてもらうことにしよう』と言った（使徒17・31〜33）

死から始まる生

と、記されているように、十字架より復活の方が信じていくのです。

る生

とは何か、と問いたい。使徒が語り、聖書が語り、世々の教会が語ってきた福音による救いとは何か。それは「罪」と「死」からの救いです。「罪」と「死」からの解放（自由）を言うのです。主キリストの復活を信

じめることはできる。しかし「死者の復活などない」と言ったら、「あなたがたはこの福音によって救われま

す」と言う、パウロの言葉は嘘になります。

パウロは「死者が復活しないのなら、キリストも復活しなかったはずだ。そして、キリストが復活しなかったのなら、あなた方

の信仰はむなしく、あなたがたは今もなお罪の中にあることになる

ます。そうだと

か。また、真の人に相応しく、日々生きるために、どのような望みを持つて活き、世を去ることが正しいのか。ただ、与えられた人生を死に向かつて生きるだけなのか。否です。わたしたちは、主キリストの復活の恵みによって、死から始まる生を生きるのです。このことは死者の復活があるか、ないかの問題ではなく、信仰そのものの根本問題です。

▼むかし、お金がなくて買えず悔しい思いをした『原民喜全集』を、つい先日手に入れた。大分汚れてはいるるが、嬉しい。大事に、少しずつ読めば、半年は味わえるだろう。▼被爆して死んでいった人々の無念、天逝した妻への愛を、民喜は、鉄道自殺という悲惨な死を遂げるることによって、我が心に「刺し貫く」「死んで

教会の信仰・信仰告白

パウロは、ここで、死者が復活するかしないかなどについて議論しようとは致しません。議論したからといってそこに解決はありません。

今日わたしたちは、信仰告白（信条）として継承し、それが教会形成の柱となっているのです。真実、主キリストが復活しなかったと

神が復活させた

がなければ、キリストも復活しなかったはずです」そして「キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教も無駄です」使徒たちは、復活の証言者として活き、人々は、語られたその福音を受け入れ、それによって教会が誕生し、形成されてきたのです。教会は、使徒たちが語った福音を教会の信仰として受け入れ、また告げ知らせたのです。	「初めに言葉があった」初めに復活があった。信仰を問うことによって、初めに帰り、主の復活を正しく信じることを語るので、パウロは、「最も大切なこととしてわたしたちがあなたに伝えたいこと」に帰ることを勧めています。「死者の復活」という事柄を信仰の中心として、イエス・キリストの復活の事実から考えようとするのです。主キリスト
---	--

トの復活は、信仰の根本の問題です。神のなさること、目を向けさせるのです。信仰とは、「神をどう信じるか」と言うことです。主イエス・キリストの復活は、確かに主キリスト御自身が復活されたのであります。が、それは神のなされたことなのです。主キリストのため復活は、罪人のために十字架について死なれたお方を神が復活させられたので

たかどうか、と言うことで
す。神を信じるかどうか、
の問題です。主キリストの
復活が、神の力を現し、神
が、人の罪を赦すために、
十字架の死を死に終らせる
ことをなされずに、生命に
いたらせたことを信じる
か、どうかの問題です。主
キリストを神が復活させら
れた、その故にわたしたち
も、罪から救われ、死から
も救われ、自由にされた者

たかどうかが問題なのです。パウロは、初めに復活があつた、このことが大切であることを明らかにし、教会が、常に、そこに立ち確信を持つて受けたことを伝えるのです。わたしたちは常に、死に勝たれた、復活者の恵みの下に留まり、死から始まる命を生きるのです。無から有を創造される神を崇めて活かしますので。

（和歌山教会牧師）

外に短い時間の内に、『夏の花・心願の国』さえ、本棚の後ろに隠れてしまった。

▼否。文学を信仰の観点から誉めるのも貶すのも愚からだが、我らの信仰は、『死んでいった者への悲しみによって實かれ』ているのではない。十字架に架けられた方は、死から甦られた方であり、「あなたがたに平和があるように」と語りかけ、て下さった方なのだから。

お知らせ
『教団新報』今号を四六
〇一・〇二合併号とし、
四六〇三号は五月二七日
発行とします。

総幹事 竹前 昇

▲むかしヤ
金がなくて買
えず悔しい思
いをした『原
民喜全集』を
つひ先日手

関東教区教会高校生キャンプ

命あることを感謝して、今を

十五回目を迎える関東教区教会高校生キャンプは四三名の参加者を得て行われた。

昨年引き続き草津にある元ハンセン病患者の療養施設栗生楽泉園について学んだ。昨年はハンセン病について、また草津でのハンセン病療養に関わったリ

園に伺い施設内にある聖公会・聖恵主教会の方々と出合いを体験した。

正直なところ、主催する側にも不安がある。どれだけ伝えることができるのだろうかと考えるところかと思ふ。そんな時、

神学生時代に夏期伝道実習の一環で伺った品光光明園で出会った元ハンセン病患者の方の「私たちが居なく

なってしまう前に、子ども

たちをこの場へと連れて来て欲しい」という言葉を思い出す。何ができるとい

うではなく、連れて行くことだけで使命を果たせるのでは、と考えた。

「たとえわたしたちの『外なる人』は衰えていくとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされて

いきます」(コリント二・4・16)は、訪問時に講演をしてくださった自治会長

(聖恵主教会会員)藤田氏の慰めの聖句。他の療養所施設とは違い外部との行き

来が比較的自由であったと仰っていたが、半世紀以上施設の中で暮らさなければ

ならなかったことはどれだけ苦悩であったか分からない。入所者の平均年齢は八

〇歳。しかし、藤田氏だけでなく教会で共にお食事をしたご婦人の方々も生き生

きとした力を持っておられた。藤田氏は子どもたちに

向けて「今をしっかりと生きる」ことを繰り返し勧めて下さった。命のあることを感謝して、今を生きてゆ

くように、と。

楽泉園の訪問を受けて、子どもたちはその感じたま

まを森牧師(狭山伝道所)の指導によるフィンガーペイントで心を表した。子どもたちの中には、楽泉園に行くと不安に思っている者もいた。どの様にして向かい合えばよいのか分か

らなかつたからだ、と。し

かし実際には聖恵主教会の石浦さんや婦人の方々の温かい歓迎で、不安な思いを

取り除くことができた、と

SCF・学生キリスト教友愛会

青森、除雪と交流の旅

教団の学生・青年センタースCF・学生キリスト教友愛会(東京・中野)による青森での「除雪と交流の旅」が二月九日(木)から十三日(月)まで行なわれ

た。吉岡康子館長・小栗仁志主事と十五名の青年達が、昨年を上回る豪雪被害

のなかを生きた奥羽教区北西地区の教会を訪問、除雪作業と交流の時を持つ

た。

初日には猛吹雪のなか積雪二〇メートルにも届くか

苦しつても雪に埋もれた一

告白してくれた。一つ紹介する絵は佑太君の絵だ。両脇の暗闇、そして中央の道は光に向かっていて。今の心境を表している。十八歳の心の不安、しかし光に向

かって歩んでいきたいとの信仰が表現されている。

「知らなかつたことは罪？」なのか。見て見ぬ振

りをする、知らない振りをすることは罪である。今、私たちは一つのことを知った。子どもたちは明らかに変わった。知らないでいることは、勝手な偏見を生む。知ろうとすること、そこから変化は起こっていくのだろう。神との関係も。(小池正造報)

階部分の「掘り出し」に成功。一同達成感に満たされ、て会室内で一休みしている

と「ドドッ」との音と共に屋根の雪、一メートル四方のかたまり数個が今

まで除雪していたところに落下。作業中だったら…と守られたことを感謝すると共に、このような事故によって今年も多く死傷者が

出た雪国に生きる厳しさを

実感させられた。

夜には教会員の皆さんと愛唱讃美歌合唱・沖縄から

の参加者による「琉球讃美歌」の披露、さらには全員によるハレルヤコーラスへ

をかけたも死なない遺伝子組換え大豆である。遺伝子

た。しかし、そのことが、今、人間と自然にとって、新たな脅威となりがねない時代をもちあしつある。遺伝子

過去一〇年間に、遺伝子操作による新たな時代を迎え、遺伝子組換え生物を自由に作り、クローン技術の発達によって人間の遺伝子自身を操作することも可能になった。現在、遺伝子操作が最も身近になったものに「遺伝子組換え作物」がある。すでに、世界中では、日本の面積の三倍弱にあたる土地に、遺伝子組換え作物が栽培され、世界の大豆の六〇パーセントは除草剤

東海教区農村伝道協議会

「DNA・命・食べ物」

東海教区農村伝道専門委員会主催の第四回「農村伝道協議会」が二月二七日(二八日塩尻市のJAアスティかたおかを会場にして開催された。講師は「遺伝子組換え情報室」代表、四日市大学講師の河田昌東氏で、「DNA・命・食べ物」と題して講演がなされた。参加者は三教会五〇名であった。

一九五三年に、ワトソンとクリックが遺伝子の本体DNAの構造を解明してから、この五〇年の間に遺伝子の研究は飛躍的に進み、今では、遺伝子を入間が自由に操作し、人工的な遺伝

子組換えさえも可能になった。しかし、そのことが、今、人間と自然にとって、新たな脅威となりがねない時代をもちあしつある。遺伝子

過去一〇年間に、遺伝子操作による新たな時代を迎え、遺伝子組換え生物を自由に作り、クローン技術の発達によって人間の遺伝子自身を操作することも可能になった。現在、遺伝子操作が最も身近になったものに「遺伝子組換え作物」がある。すでに、世界中では、日本の面積の三倍弱にあたる土地に、遺伝子組換え作物が栽培され、世界の大豆の六〇パーセントは除草剤

をかけたも死なない遺伝子組換え大豆である。遺伝子

た。しかし、そのことが、今、人間と自然にとって、新たな脅威となりがねない時代をもちあしつある。遺伝子



青森戸山教会の皆さんと懇親会

と盛り上がり、讃美の歌声が猛吹雪につつまれた八甲田山中標高八〇〇メートルに立つ伝道所に響き渡るように、忘れがたい交わりの夜となった。

三日目には日本最北のハンセン病療養所である松丘保養園内の教会松丘聖生会をお訪ねし同教会代表の神子沢新八郎・悦子ご夫妻からお話を伺った。

会員の皆さんの歩みは実に苦難に満ちた人生であり、また教会の歩みも実に困難を極めた事を学んだ。

「私たちの証しを若い皆さんが確かに受け継いでください」との神子沢さんの励ましを深く心に刻み共に祈る時を持った。

その後青森松原教会と青森戸山教会の皆さんと懇親会をもちあしつある。遺伝子

過去一〇年間に、遺伝子操作による新たな時代を迎え、遺伝子組換え生物を自由に作り、クローン技術の発達によって人間の遺伝子自身を操作することも可能になった。現在、遺伝子操作が最も身近になったものに「遺伝子組換え作物」がある。すでに、世界中では、日本の面積の三倍弱にあたる土地に、遺伝子組換え作物が栽培され、世界の大豆の六〇パーセントは除草剤

をかけたも死なない遺伝子組換え大豆である。遺伝子

た。しかし、そのことが、今、人間と自然にとって、新たな脅威となりがねない時代をもちあしつある。遺伝子

過去一〇年間に、遺伝子操作による新たな時代を迎え、遺伝子組換え生物を自由に作り、クローン技術の発達によって人間の遺伝子自身を操作することも可能になった。現在、遺伝子操作が最も身近になったものに「遺伝子組換え作物」がある。すでに、世界中では、日本の面積の三倍弱にあたる土地に、遺伝子組換え作物が栽培され、世界の大豆の六〇パーセントは除草剤

をかけたも死なない遺伝子組換え大豆である。遺伝子

た。しかし、そのことが、今、人間と自然にとって、新たな脅威となりがねない時代をもちあしつある。遺伝子

過去一〇年間に、遺伝子操作による新たな時代を迎え、遺伝子組換え生物を自由に作り、クローン技術の発達によって人間の遺伝子自身を操作することも可能になった。現在、遺伝子操作が最も身近になったものに「遺伝子組換え作物」がある。すでに、世界中では、日本の面積の三倍弱にあたる土地に、遺伝子組換え作物が栽培され、世界の大豆の六〇パーセントは除草剤

をかけたも死なない遺伝子組換え大豆である。遺伝子

た。しかし、そのことが、今、人間と自然にとって、新たな脅威となりがねない時代をもちあしつある。遺伝子

過去一〇年間に、遺伝子操作による新たな時代を迎え、遺伝子組換え生物を自由に作り、クローン技術の発達によって人間の遺伝子自身を操作することも可能になった。現在、遺伝子操作が最も身近になったものに「遺伝子組換え作物」がある。すでに、世界中では、日本の面積の三倍弱にあたる土地に、遺伝子組換え作物が栽培され、世界の大豆の六〇パーセントは除草剤



他の教区にはない「農村伝道専門委員会」主催で42回を数えた「農村伝道協議会」



宿泊場所として使わせて貰った渋川教会で



佑太君の信仰が表現された絵

十日町教会牧師館建設着工へ

第8回「新潟県中越地震」被災教会会堂等再建支援委員会

三月二〇日教団会議室にて了したと思われる。
○第34総会期第四回常議員会での決定を受け、阪神大震災被災教会会堂等再建支援委員会が開かれた。
(1)事務局報告
○クリスマス募金はほぼ終了
一、〇二二円、第三次募金より三、七二九、九八一円。
○十日町教会牧師館解体、撤去費用一、四〇〇、六五〇円を送金した。
○献金累計額(三月一七日現在)八六、七四五、九一五円。
○関東教区報告
○降雪時期が例年になく早く且つ豪雪となった。新潟地区・群馬地区から雪掘りボランティアを派遣したが、雪捨て場への搬送費用等も相当嵩んでいる。
○十日町教会牧師館建設は四月二三日教会総会後、着工、夏頃には完成の予定である。教会内献金一、〇〇〇万円を目標にしている。
○見附教会は新たな土地を取得し、会堂・牧師館を建設するが、八月までに着工できれば雪のこともあり、来年にずれこむことにする。



次期総会期の委員会再設置を常議員会に要望

(3)支援計画
「支援ニュースNo.5」を教区総会に向けて発行する。全教会と各教区総会議員に配布したい。
内容は十日町教会、見附教会の具体的計画(資金計画も含め)を1〜3面に載せる。また、差し込みで個別献金報告を入れることとする。
(4)その他
阪神大震災救援募金が繰り入れられ、目標額の57%が達成された。しかし、当委員会設置期間内で目標に満たない場合のことについて意見を交わした。
○当委員会より、次期総会期再設置の要望を最終常議員会に示す。
○二〇〇六年のクリスマス募金依頼は、現委員会が担う。(次期常議員会で再設置が決定されても間に合わないであろうから)
◇
*東京教区では「中越地震が達成された。しかし、当委員会設置期間内で目標に満たない場合のことについて意見を交わした。」

ベルギーに初の宣教師派遣

宣教師派遣式

三月十五日に岡田直宣宣教師派遣式が、また、三月十八日に大野高志宣教師派遣式がそれぞれ執り行われた。
岡田氏は十貴坂教会での伝道牧会の後、ドイツ・トリアー大学に留学した。留学中にベルギー・ブリュッセルを訪問した折、ブリュッセル日本語プロテスタント教会に出席したのをきっかけに集会を手伝うことになった。集会を担当していた牧師が昨年逝去し、集会を教会として発展させていくことが必要と決意した。
その後ベルギー福音宣教会(BEM)から日本人伝道のために招きを受け、教団とBEMの協議により、岡田氏は宣教師として派遣されることとなった。教団がベルギーに宣教師を派遣するのは初めてのことであり、BEMとは新しく協力関係を構築することとなった。
BEMは負担金を課さないが、各教会での独立した財政責任を原則としており、ブリュッセル日本語プロテスタント教会もその責任を負うこととなった。岡田氏はすでに日本の支援会を立ち上げ準備している。
派遣式の後にもたれた茶話会で、岡田氏は「この召しは大変困難であるが、ベルギーばかりではなく、ルクセンブルクを含めた地域を射程にして宣教に専念したい」と決意と抱負を熱く述べた。
◇
大野氏のケルン・ボン日本語キリスト教会への派遣は、BEMは負担金を課さないが、各教会での独立した財政責任を原則としており、ケルン・ボン日本語キリスト教会もその責任を負うこととなった。大野氏はすでに日本の支援会を立ち上げ準備している。
派遣式の後にもたれた茶話会で、大野氏は「この召しは大変困難であるが、ケルン・ボンばかりではなく、ルクセンブルクを含めた地域を射程にして宣教に専念したい」と決意と抱負を熱く述べた。



ブリュッセルへ岡田直丈氏



ケルン・ボンへ大野高志氏



生原 優氏(隠退教師)

三月三日、逝去。八十一歳。神奈川県に生まれる。一九五五年日本基督教神学専門学校卒業後、神戸丸山教会に赴任。その後銀座教会、日下部教会を経て、七三年から九七年まで本郷中央教会を牧会し、隠退した。遺族は妻の道子さん。
志布志 志布志市志布志町 志布志二の七の二八
浜坂 兵庫県美方郡新温泉町浜坂九七五の一
勝沼 甲州市勝沼町勝沼 一四二〇
気賀 浜松市細江町気賀 四七の二四
山都 喜多方市山都町 字津田九六七
水海道 常総市水海道 天満町一七二
竹野 豊岡市竹野町竹野 九九
(通信先)岡田直宣 二五三二の二田中 香住 兵庫県美方郡香美町 八の五
但馬日高 豊岡市日高町 岩中八三の三
神愛 静岡市清水区沼田町 八の五
伊豆長岡 伊豆市国市 長岡一三四三
城崎 豊岡市城崎町湯島 三〇〇
津示路 津市藤方字米垣内 一〇四八の一
宮田 宮若市宮田七三 二の三の二
尾尾 長岡市栄町 二の三の二
江刺 奥州市江刺区 南大通り四の二六
神辺 福山市神辺町大字 川南三三二

事務局報

教師異動
ベテル春日台
就主井上真一
飯盛野 辞代(秋山英明)
就主奥野彦蔵
桜新町 辞主中山弘隆
辞主中山弘隆
就代(中山弘隆)
志村清水 就(兼主)勝山健一郎
就(兼主)勝山健一郎
教師隠退
松山幸生、澤村政一、澤村ツネ、仲尾次清彦
教会設立(新設)
ベテル春日台(第一種)
神戸市西区春日台
二の三の六
(主)井上真一
伝道所開設
志村清水 板橋区泉町五二の六(兼主)勝山健一郎
所在地変更
群馬町 高崎市冷水町 七三の一
うぐさ 南城市大里 字仲間九六の一
久居新生 津市久居新町

残り続ける陰

奥羽 邑原宗男

この国は自然災害のため、毎年のように大きな被災地がでる。奥羽教区も何回となく被災地となり、教団社会委員会と共に救援を繰り返した。中には救援要請を断念した時もある(阪神大震災の半月前に起こった三陸はるか沖地震、最も大きく被災した教会は八戸柏崎教会、後日建て替えとなった)。二〇〇三年五月二六日、岩手県内陸地域が大きく被災した。教区常置委員会は「三陸南地震被災教

教区コラム

会復興委員会」を設置し、教団社会委員会と相談し協力して救援活動被害の大きい八教会へ行くこととした。目標総額は、四五〇〇万円。中でも土沢教会は全壊に等しく、新築せざるを得なかった。多くの祈りに支えられて、地震から一年後感謝のうちに献堂した。しかし相次ぐ自然災害のため、募金目標には程遠く、土沢教会のために割り当てた当初予定額も下方修正して二九〇〇万円としたが、一四六〇〇、二四四七万円となった。結(奥羽教区総会議長)

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

宣教師からの声

愛は、すべてを完成させるきずな

アルトマン・ユキコ

(PCUSAからHELPへの派遣宣教師)

より、今年二〇周年を迎えることができました。設立当初は、人身売買に巻き込まれたアジア圏からの女性が圧倒的な数を占めていました。しかし、その国籍も徐々に南米、欧州など多様化していきま

した。私がここでお手伝いを始めた二〇〇一年頃には、日本人夫の暴力から逃げてくるアジア圏の女性とその子ども(たち)が、多く滞在していました。また、日本人女性の大半も夫の暴力から逃れてきた人たちでした。当時はまだ、家庭内での夫による妻への暴力に



心身を休ませ、安らげる環境を

対する社会の理解は殆どと言って

よい程ありませんでした。二〇〇一年の一〇月にDV防止法が施行されて初めて、夫の暴力は犯罪行為とされ、DVサバイバーは法的に保護されるようになりました。また、去年八月の刑法改正により、ようやく人身売買に関わった人々の罪が問われ、人身売買サバイバーたちは「犯罪者」として日本から強制送還されることなく、法的に日本を出国できる権利を得ました。

三月下旬現在、HELPの利用状況は、日本人母子二組(DV)、日本人单身女性五人(居所なし)、外国籍二人(DVと人身売買)で、計十二人です。日本人女性の入所が最近増加の一途を辿っています。現在の利用者五人は五〇代から八〇代まで、それぞれ、様々な理由で安心して戻れる場所を持たない方々です。入院の必要はないが、社会生活になじめないといった心の病を抱え、安住の場所を見つけれないでいる女性たちも少なくありません。役所の婦人相談員などに付き添

きます。子どもたちも、最初、攻撃的だったり、寡黙だったり、おどおどしたりと様々です。でも、穏やかな周りの様子に素直に応じてくれて、可愛く元気に走り回るようになります。スタッフはこんな利用者たちの変化を待ち、それぞれに本来備わっている力が少しずつ戻ってきていることを確認し、その都度感激し、安堵します。それから、利用者とスタッフの関係ができていきます。母国に戻りたい女性たちには煩雑な法的手続きの手伝い等のサポートを、アパートを見つけて自立していきたい女性たちには、公的資源の活用の手伝い等を、私たちスタッフは始めるのです。HELPを必要とせざるを得ない女性たちの多くは、本来備わっているはずの力を過酷な環境の中で失いかけています。その力が少しずつでも戻り始め、それを再び活用できて、自立し、旅立つべくプロセスの手伝いができる場所がHELPであり、そこで奉仕の機会を与えられていることに感謝しています。毎日、「愛は、すべてを完成させるきずなです」の証人となれることも。

フィリピン・南レイテ地滑り復興支援募金のお願い

御名を讃美いたします。

2006年2月17日、フィリピン・レイテ島南部セントバーナードのギンサウゴン集落を丸ごと飲み込む地滑りが発生し、何百トンもの岩、泥等がカンアバック山から崩れ落ち、281軒の家屋と246人の学童・教師がいた学校が埋まりました。直ちに捜索・救援活動が開始されました。

WCCとルーテル世界連盟でつくる人道支援組織ACT (Action by Churches Together) は世界の教会に復興支援募金を呼びかけました。

フィリピンのACTメンバーであるフィリピン教会協議会(NCCP)は、スタッフを被災地に送り、調査した結果、既に緊急救援段階での支援は十分に行われており、復興に焦点をあて、支援をすることにしました。

私達も祈りを以て、これに応じたいと思います。

2006年3月22日

日本基督教団社会委員会 委員長 小出 望

記

▽募金期間 2006年8月末

▽目標額 特に定めません

▽送金先 加入者名 日本基督教団社会委員会

郵便振替001500-2-593699

※今回より、社会委員会独自の口座になりましたので、お間違いないようにお願いします。

(通信欄に「南レイテ地滑り復興支援募金」とお書き下さい)

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-1

3-18-31 日本基督教団社会委員会

お知らせ

★東京地区原理問題相談会

時〓5月26日(金) 13時〓

15時〓所〓日本キリスト教

会館4階会議室〓問合せ〓

東京教区事務所(☎03-

3203-4270)

★全国教会幼稚園連絡会

園長・設置者会

時〓6月5〓7日〓所〓軽

井沢 中央工学校 南ヶ丘倶楽部「テーマ」『生き残り

をかけた幼稚園』〓総合施

設を展開する中のある教

区を取り組みから〓主題

講演〓生野隆彦氏(三崎教

会牧師・三浦市教育委員長)

〓発題〓東北教区 栄光学

園園長 今野善郎牧師、東海

教区 信濃キリスト教学園

木原盛行牧師



嶋崎紀代子さん

ハンセン病患者救済に携わって60年



1924年生まれ。医師。日本キリスト教救済協会理事長。甲府中央教会員。

嶋崎さんがハンセン病救済に目覚めたのは、医学生時代、多摩全生園を見学したのがきっかけだった。『こういうところで働きたい』と強く思ったそうだが、第二次大戦中、社会の偏見差別が強かったところで、周囲からも反対があったと、嶋崎さんは淡々と述懐してくれた。

自ら、そこで働くことを断念した代わりに、嶋崎さんは、医業に専念した六〇年ほど前から、一九二五年に賀川豊彦牧師らが設立した組織(七二年、現在の日本キリスト教救済協会に改組)に関わって救済事業に取り組み始めた。医師としての業務、子育ての中で続けられたのは、三年前に亡くなった医師の夫君ら「家族や教会の友人が愛

と祈りで応援してくれたから」という。嶋崎さんは六六年から評議員、理事を務めた後、九〇年に第六代理事長に就任した。協会は七三年から韓国のハンセン病患者救済に乗り出し、これまでに五三棟の老人ホームを建設した。九五年からはインドネシアの救済を続けており、嶋崎さんは「二二年間毎年、韓国を訪れている」。

九六年、ライ予防法が廃止され、ハンセン病問題は何となく終わったと思っている人が多いが、全国十四の施設に三千人余の元患者がいるだけでなく、社会復帰といっても、施設の近くに住居を移しただけという例が

宗教法人への影響、不活動宗教法連合会に印紙税問題を機に復帰、再加入したが、この度、そのつながりで日本宗教連盟の理事長に教団総会議長が就任することになった。日本宗教連盟とは日本キリスト教連合会のほか、教派神道連合会「全日本仏教会」「神社本庁」「新日本宗教団体連合会」が加盟して構成している。

任期一年にて五つの団体が輪番制で責任を担っている。以前は力トリックの白柳誠一板機卿が理事長をつとめられた。昨今の公益法人制度改革に伴う

日本宗教連盟

つ取り組んでいる。日本宗教連盟の構成団体からして天皇制、日の丸・君が代問題、靖国神社問題や歴史理解が右寄りで大丈夫なのかとの心配もあるのかと思う。

こうした問題の論議は当然のことながら緊張にみちたものとなるが、採決はせず、各団体に持ち帰り、各々が判断し行動することになっている。オウム以来、一段と宗教への不信感が増しつつあるやに思える世相にあって宗教が果たすべき役割を考え自覚しつつ、協力できることはしていくとの開かれた姿勢をとっていく必要がある。教団から日本宗教連盟理事長を出したことを覚え、ご加勢願いたいと思うや切である。(教団総会議長 山北宣久)